

# 会議・視察報告

## 「2019年北東アジア国際観光会議inハルビン」参加報告

ERINA 経済交流部長  
安達祐司

### 1. 開催地の概要

8月31日～9月1日、黒龍江省の省都ハルビン市において、「2019年北東アジア国際観光会議 in ハルビン」が開催された。この会議は、北東アジア地域における国際観光の振興と地域間連携・協力について産官学の関係者が議論し、地域

経済の発展を目指す国際会議であり、基本的に「北東アジア国際観光フォーラム」(International Forum of Northeast Asia Tourism; 以下 IFNAT)が主催し、開催地の関係機関が共催している。この会議は2004年に中国大連市で第1回が開催されて以来、今回で14回目の開催となる。これまでの開催実績を表1に示す。

次に、開催地となったハルビン市及び会場となった「ハルビンヴォルガ荘園」の概要について触れておく。

ハルビン市は、中国東北地方の最北部に位置し、ロシアと国境を接する黒龍江省の省都であり、面積は53524km<sup>2</sup>、人口約955万人の大都市である(出所:黒龍江省統計年鑑2018)。

ハルビン国際空港は、表2に示す通り、日本やロシアなど北東アジアの近隣諸国と定期航空路で結ばれている。新潟空港とは中国南方航空が週4便運航し、平成30年度の利用客数は3万8904人、対前年度比163%と大幅に増加している(出所:新潟県ホームページ)。ちなみに、ハルビン市は新潟市との間で1979年に海外の都市として初めて友好都市関係を締結しており、本年で友好都市締結40周年を迎える。

表1 北東アジア国際観光会議の開催実績

回	開催年月	開催地	共催団体・実行組織	参加国[参加者数 <sup>1)</sup> ]
1	2004年8月	大連市(中国)	遼寧省人民政府、北京・遼寧社会科学院	中国、日本、韓国[50名]
2	2005年3月	大邱市(韓国)	大邱市庁、韓国観光公社	中国、韓国、日本、ロシア[100名]
3	2006年9月	新潟市(日本)	新潟県、新潟市、ERINA	中国、日本、韓国、ロシア、モンゴル[350名]
4	2007年11月	東草市(韓国)	江原道庁、東草市庁	中国、日本、韓国、ロシア、モンゴル[200名]
5	2008年10月	ウランバートル市(モンゴル)	モンゴル国政府、ウランバートル市	中国、日本、韓国、ロシア、モンゴル[200名]
6	2009年5月	ハバロフスク市(ロシア)	ハバロフスク地方政府、ロシア観光連盟	中国、日本、韓国、ロシア、モンゴル[130名]
7	2012年2月	新潟市(日本)	IFNAT日本委員会	日本、中国、韓国、ロシア、モンゴル[100名]
8	2012年8月	全羅北道全州市(韓国)	東北亜細亜観光学会 <sup>2)</sup> 、IFNAT日本委員会	韓国、日本、中国、ロシア、モンゴル[300名]
9	2013年8月	慶尚北道金泉市(韓国)	東北亜細亜観光学会、IFNAT日本委員会、金泉市	韓国、日本、中国、モンゴル[450名]
10	2014年8月	北九州市(日本)	IFNAT日本委員会、東北亜細亜観光学会、北九州市	韓国、日本、中国、モンゴル、ロシア[170名]
11	2015年8月	ウランバートル市(モンゴル)	モンゴル国政府、ウランバートル市、IFNAT日本委員会、東北亜細亜観光学会	モンゴル、日本、韓国、中国、ロシア[220名]
12	2017年5月	ウラジオストク市(ロシア)	沿海地方政府、IFNAT日本委員会、東北亜細亜観光学会	ロシア、中国、韓国、日本、モンゴル[230名]
13	2018年8月	大分市(日本)	大分県、大分市、IFNAT日本委員会、東北亜細亜観光学会	日本、韓国、中国、ロシア、モンゴル[200名]
14	2019年8～9月	ハルビン市(中国)	黒龍江省社会科学院、IFNAT日本委員会	中国、日本、韓国、ロシア、モンゴル[140名]

出所:IFNAT日本委員会

注:1)参加者数は主催者発表による。2)東北亜細亜観光学会(Tourism Institute of Northeast Asia = TINA)は、韓国の観光学研究者で構成される学会。第8回～第13回会議について、IFNATと共催。

表2 ハルビン国際空港の北東アジアとの国際線

日本	新潟	4便/週
日本	成田	9便/週
日本	関西	4便/週
日本	中部	2便/週
韓国	仁川	2便/日
ロシア	ウラジオストク	8便/週
ロシア	ハバロフスク	3便/週
ロシア	エカテリンブルグ	3便/週
ロシア	モスクワ	2便/週

出所:ERINA 2019年9月現在

近年、中国東北部でも高速鉄道の整備が進み、表3の通りハルビン市と主要都市が高速鉄道で結ばれ、広大な国土で移動の利便性が増している。

表3 黒龍江省の高速鉄道

ハルビン—瀋陽—大連
ハルビン—大慶—チチハル
ハルビン—ジャムス
ハルビン—牡丹江—綏芬河

出所:ERINA 2019年9月現在

また、ハルビン市は、1898年にロシア帝国が当時の満洲を横断する東清鉄道建設を開始したことで、交通の要衝としてロシア人が入植し、その後も1917年のロシア革命を逃れた多くのロシア人を受け入れたことから、市の中心部には聖ソフィア大聖堂のほか、当時のロシア建築物が多数残されている。このため、その景観や歴史的経緯からハルビン市は「東方のモスクワ」、「東洋の小パリ」と称され、国内外から多くの観光客が訪れており、表4が示す通り外国人観光客も年々増加している。

次に、今回の北東アジア国際観光会議が開催された「ハルビンヴォルガ荘園」の概要を紹介する。この「ハルビンヴォルガ荘園」は、いわゆるロシアテーマパークで、中国の民間資本により建設され、2010年にオープンした。ハルビン市中心部から東南方向に直線距離で約25kmの郊外に位置し、松花江の支流である阿什河沿いの面積約60万㎡(概ね東京ドーム13個分)の敷地に30余のロシア正教会や帝政ロシア時代の古城、木造建築物が配置されている。敷地には、阿什河の水を引き入れた湖沼にロシア建築物が映し出され、全体として美しい景観を作り出している。施設内には、中国料理、ロシア料理が味わえるレストランやホテルも完備されている。このテーマ

表4 外国人観光客数

年	外国人観光客総数
2013年	167,307人
2014年	169,165人
2015年	170,629人
2016年	217,552人
2017年	239,000人

出所:ハルビン統計年鑑、2017年ハルビン統計広報

写真1 聖ソフィア大聖堂



(出所)筆者撮影

写真2 「ハルビンヴォルガ荘園内」のロシア古城



(出所)筆者撮影

パーク「ハルビンヴォルガ荘園」は、中国政府の国家観光局が定める観光地の等級4Aに指定され<sup>1</sup>、単に観光施設としてだけではなく、中ロ文化交流の拠点、ロシア美術の創作拠点、モスクワ大学の国際交流センターとしての役割も担っている。

今回の会議参加者は、施設内のホテルに宿泊し、施設全体の視察も会議日程に組み込まれた。また、ロシア料理レストランで行われた会議のレセプションでは、施設に常駐するロシア人ミュージシャンやダンサーによるロシア民謡も披露された。

開催地の主催者である黒龍江省社会科学院が今回の会議会場をロシアテーマパークに設定したわけだが、会議の主題である国際観光が担う異文化の理解・交

流という重要な側面にも注目した主催者の意図と、ロシアと地理的・歴史的にも近いハルビンの土地柄が伺えた。

## 2. 会議の概要

前項で記載したように、今回の会議はロシアテーマパーク「ハルビンヴォルガ荘園」内のホテルで開催された。郊外にある有料の観光施設を会場としていることもあり、いわゆる一般の参加者はなく、予め登録した参加者による会議となった。開催地主催者である黒龍江省社会科学院がまとめた参加者名簿によると、中国82名、日本16名、韓国10名、ロシア1名、モンゴル1名に加え、今回は地元ハルビンの学生による北

<sup>1</sup> 中華人民共和国国家観光局は、観光地の重要性だけでなく、安全性、清潔さ、衛生面、交通の便利さを考慮して、観光地の質を高める目的で、1Aから5Aまで5段階の等級付けを行っている。2017年8月29日時点では249カ所が指定されている(出所:ウィキペディア)。

東アジア国際観光をテーマとした分科会も設定されて27名の学生が参加、合計137名の会議となった。IFNATの「観光は平和のパスポート」との基本理念の下、全体テーマとして「北東アジア国際観光:新時代、新機会、新発展」を掲げ、主催者挨拶、来賓挨拶、基調報告、セミナーが行われた。

以下、発言者とテーマを記載する。

### (1) 開会式(敬称・内容省略)

進行:黒龍江省社会科学院党委副書記、院長 董偉俊

主催者挨拶 黒龍江省社会科学院党委書記 周峰

IFNAT 会長 小島隆  
黒龍江省文化・観光庁副庁長 何大為

来賓挨拶 北東アジア地域自治体連  
合事務総長 金玉彩  
駐瀋陽韓国総領事館副  
領事 許承宰

極東国際関係大学学長  
ヴァガノヴァ・タチヤーナ  
モンゴル科学院国際関係  
研究院副教授

アマルバット・スス・ブルマ

### (2) 基調報告(敬称略)

進行:黒龍江省社会科学院副院長 閻修成

①黒龍江省社会科学院東北アジア研究  
所長、東北アジア戦略研究院首席專  
門家 笄志剛

「北東アジアの国際観光協力活性化の  
時期到来」

②極東国際関係大学学長

ヴァガノヴァ・タチヤーナ

「ハバロフスク地方を事例としたロシアと  
中国の観光協力の現状と展望」

③大阪観光大学名誉教授 鈴木勝  
「北東アジアにおける観光振興に向け  
て」

④韓国観光発展局瀋陽支社次長 張銀美  
「韓国の観光産業と観光資源」

⑤モンゴル科学院国際関係研究院副教授  
アマルバット・スス・ブルマ

「北東アジア地域におけるモンゴルの経  
済協力可能性」

⑥ハルビンヴォルガ莊園社長 韋敏芳  
「文化を追求し、品質で勝る—ヴォルガ  
莊園の文化の持続策」

### (3) 中国、日本、韓国の観光交流と協力に関するセミナー(敬称略)

進行:黒龍江省社会科学院東北アジア・国  
際問題研究所首席専門家、東北ア  
ジア戦略研究院首席専門家 劉爽

①黒龍江省氷雪産業研究院院長

張貴海

「東北アジアにおける氷雪観光の協同  
発展に関する研究」

②NPO法人「北東アジア輸送回廊ネット  
ワーク」副会長 三橋郁雄

「中国の—帯—路構想が大きく発展し  
ていくための条件」

③中国祭事・観光大会副秘書長、ハルビ  
ン観光発展研究所特別研究員 李剛

「ハルビン市の先進的な国際観光都市  
建設に関する考え方」

④金浦大学教授 李京淑

「18世紀における朝鮮の学者による中  
国旅行」

⑤ハルビン商業大学観光・調理学院院长

石長波

「黒龍江省の農村観光の発展とその  
特色ある文化融合の方向に関する研  
究」

⑥黒龍江省社会科学院東北アジア研究  
所日本研究室主任 杜穎

「中国と日本の対ロシア観光における連  
携の現状と展望」

今回、セミナーと並行して、開催地の大  
学生による北東アジア国際観光をテーマに  
した分科会が開かれ、優秀な論文に対す  
る表彰式も行われた。

進行:黒龍江省社会科学界連合会学会  
部部长 曹妍

参加校:黒龍江省社会科学院研究生学院

ハルビン師範大学歴史観光学院

黒龍江大学経済管理学院・ロシ  
ア研究センター歴史部門

ハルビン商業大学観光・調理学院

また、会議では、直接、報告を行った参  
加者の資料の他に、参加していない北東  
アジア各国の研究者による論文も収録・製  
本した資料集が配布された。

### (4) 視察

9月1日には、観光関連施設の視察も実  
施された。最初に訪れたのは「ハルビン  
ビール」の工場に隣接するハルビンビール  
博物館である。ハルビンビールは1900年に  
ロシア人が設立した中国で一番古いビー  
ル会社で、中国ビール生産発祥の企業で  
ある。中国における現在のシェアは第4位  
だが、ハルビン市の一人当たりのビール消  
費量は、ミュンヘンに次いで世界第2位と  
言われており、ハルビンビールはハルビン市  
の重要な産業の一つと言えよう。

ハルビンビール博物館の後、ハルビン市  
中心部の聖ソフィア大聖堂、中央大街を巡  
り、最後に案内されたのは、温泉を主体と  
した複合レジャー施設である「湯合宮(ゆ  
あみや)温泉」である。この施設は、東京

写真3 ハルビンビール博物館



(出所)筆者撮影

写真4 湯合宮(ゆあみや)・温泉



(出所) ERINA

お台場にある大江戸温泉物語を設計した日本人設計者が全体設計の顧問を務めたことされ、2017年5月にオープンした。温泉は地下2000mから汲み上げており、湧出温度42℃のケイ酸・フッ素系天然温泉である。建物の地下にはドイツから導入されたという水処理設備が整備され、厳格な水質管理が行われている。また、施設には日本風の温泉浴場のほか、サウナや岩盤浴、日本料理のレストランや日本の旅館をイメージした宿泊部屋も完備されており、日本式温泉を体験できる施設となっている。

ハルピンは、新潟と約2時間の直行航空路で結ばれており、このような日本式温泉施設もあることで、地理的・心理的な近さを感じる。

### 3. 終わりに

今回の会議は、会場設定や視察も含め、国際観光が担う異文化の理解・交流という側面を再認識する意義ある機会となったと考える。一方、最近の北東アジア域内観光を見ると、2017年の韓国への高高度

防衛ミサイル (THAAD) 配備に対する中国の反発が招いた中韓双方向の観光客の減少や、韓国での徴用工賠償請求訴訟に端を発した日韓関係の悪化による訪日韓国人観光客の減少といった、政治・外交問題が民間の観光にマイナスの影響を及ぼす残念な状況となっている。

2019年10月4日付け朝日新聞に、9月28日にソウルで開催された日中韓シンポジウム「変化する朝鮮半島の安保情勢と東アジアの日中韓協力」での議論概要が紹介されていた。このシンポジウムで、元駐日韓国大使の申珏秀氏が「政府間の関係が悪くなると対話が途切れ民間に影響を及ぼすという事態を防ぐメカニズムが必要」と主張し、具体例として、青少年が各国を自由に旅することができる「北東アジアパス」制度の設立を提唱したという。異文化に対する相互理解を進め、交流の底辺を拡大するという観点から傾聴に値する提案と言える。その意味では、今回の IFNAT において開催地主催者である黒龍江省社会科学院が、北東アジアの国際観光をテーマに学生の論文を募り、分科会で議論の場を設定したことは北東アジア域内観光の促進にとって意義ある試みだったと言える。